



戦争法廃止の「天神ジャック」。ハロウィーンの仮装でアピールする若者たち=1日、福岡市中央区天神

中高校生も 戦争法廃止 叫ぶ

福岡 天神ジャック



ハロウィーンの仮装でシール投票をよびかける若者たち=1日、福岡市中央区天神

傍観はしない

参加した高校2年 大地 さん(17)

戦争法が強行採決されたからといって、何もなかったら、安倍政権のいいようにされてしまいます。

これまで毎日、ニュースや新聞で戦争法のことを見ている、本当に危険だと感じています。このまま黙っていたら、戦争法によって自衛隊員に犠牲がでてしまう。

学校で2カ月前に政治について話し合う時間がありました。同級生たちは、安保法制という言葉は知っていても、中身を知っている人はいませんでした。危険な内容を知らないままでは、結局は安倍政権にものを言わず、従ってしまうことになる。いま行動し、関わらなければいけないと思っています。傍観者ではなく、立憲主義をとりもどすために動きたい。

戦争法廃止のために、日本共産党が提案した「国民連合政府」の提案を知りました。共産党の覚悟みたいなものを感じました。戦争法に反対した野党は、党利党略ではなく、国民が何を求めているかを第一に考えて行動してほしいと思います。

「民主主義ってなんだ! これだ!」戦争法は違憲ばい! 「9条あるけん平和たい!」何より平和がほしいとっ! 福岡市天神の街にコールが響きました。戦争法に反対する若者、ママ、労働者など140人

佐賀県から2人の高校生が参加しました。10月に結成した99%の1306人が戦争法に反対という結果でした。民意を無視した強行採決は許されません。野党は一致団結してこの戦争法を廃止するまで頑張ってください」と語ります。

このアクションには、共産、民主、社民の各国会議員が賛同し、共産党からは田村誠昭衆議院議員がスピーチしました。

若者の戦争法に反対する運動が各地で広がっています。若者憲法集会福岡実行委員会が福岡市でとくんだ「戦争法廃止! 天神ジャック」(1日)。参加した若者たちの思いは、

加来聖子記者

2人は、戦争法を含む政治のことを学び、「佐賀で若者の行動をもっと大きく起こしていきたい」といいます。

「国会前に集まっているSEALDs(シールズ)メンバーのスピーチをインターネットやニュースで見て、自分も意見を言いたいと思った」と滝川さん。8月に佐賀で開いた戦争法の集会で、初めて自分の思いを語りました。「戦争法について、まだまだ知らないことも多いので勉強したい」と、福岡の行動に参りました。大里さんもシールズの行動に刺激を受けました。「政治の話って、若者たちがするものじゃないって、世間の人には見ていたと思う。シールズのメンバーの発言はそういう常識をひっくり返した。若者だって政治に意見を言わなきゃいけないんだって。これから世の中変わるんじゃないかって思いました」

意見言いたい

「Young Think, Young Move@SAGA」の浅川さくらさん(17)と大里隣さん(17)です。